

第24回福島ダイアログ 「次世代と考える福島これから」

協賛：日本保健物理学会 日本リスク学会



ーサポートのお願いー

忌憚ない議論を行うため、行政の補助金を用いないで開催します。サポートをどうぞよろしくお願ひします！ 一口500円～詳細は裏面をご覧ください。

2022年11月6日（日）

9:30～16:30

会場：

みんなの交流館 ならはCANvas

Zoom配信・参加費無料

<https://fukushima-dialogue.jp/zoom202211/>

2022年11月5日（土）

10:00 富岡駅前集合

午前：富岡町ツアー

ガイド：秋元菜々美さん

午後：檜葉町木戸川漁協ツアー

ガイド：鈴木謙太郎さん

要事前予約・定員先着20名

参加費（バス代） 3,000円

<https://fukushima-dialogue.jp/entry202211/>



主催：NPO法人福島ダイアログ

<http://fukushima-dialogue.jp>

Facebook: @FukushimaDialogue

Twitter: @NPOFksmDialogue

dialogue202211@fukushima-dialogue.jp

開催のねらい

東京電力第一原子力発電所事故から11年が経過しました。世界的に社会状況が大きく変わるなか、福島原発事故後の取り組みは絶え間なく続けられてきました。避難指示は広い範囲で解除され、解除された地域では地域再建のための試みが現在も行われています。一方、依然として一部には避難指示が解除されない地域も残されています。

時間の経過につれ、復興のプレーヤーも大きく入れ替わっています。とりわけ、震災時には未成年だった世代を含め、若者たちが福島の地域再建に関心をもち、なかには実際になんらかの活動を始めるようになった人もいます。多感な時期に原発事故を経験した世代は、当時すでに社会に出ていた世代とはまた違う感覚をもっているようにも思えます。これまでの福島の復興のあゆみは、震災時に成人を迎えていた世代が作ってきましたが、これからは次世代が福島の未来を決めていくこととなります。一方で、これまで若い世代の考えや意見が復興の方針に取り入れられてきたとは言い難いとも言えます。また、これまでの経験がうまく共有できていないと思える状況も発生しています。

今回のダイアログでは、福島に関心をもつ若い世代とともに、今の福島、これからの福島について意見を忌憚なく話し合い、共有すると同時に、これまでの取り組みについても、ダイアログの経験を通じて伝えられる機会にしたいと思います。

- **話したい！聞きたい！参加してみたい！**
- **ダイアログ（パネル・ディスカッション）の参加者を募集しています。条件は以下のとおりです。**
- **・11月6日（日）会場のならばCANvasに来られる方**
- **・18—35歳の福島にかかわりや関心のある人（高校生不可） ※福島在住でなくてもOK**
- **・話し合いは一般（オンライン）公開されます**
- **・交通費昼食支給、謝金は支払われません**
- **ご希望の方は、次のアドレスまでご連絡ください！**
- **（担当：安東）**
- **dialogue202211@fukushima-dialogue.jp**



—サポートのお願い—

忌憚ない議論を行うため、行政の補助金を用いなくて開催します。サポートをどうぞよろしくお願い致します！ 一口500円から何口でもOKです。

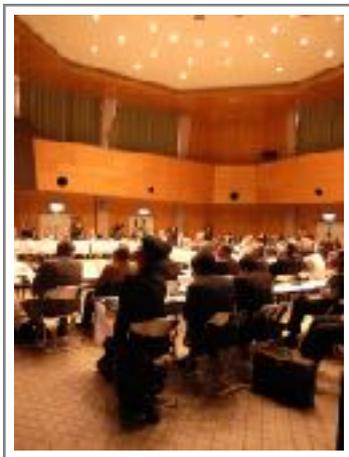
ゆうちょ銀行、東邦銀行、PayPal、クレジットカードがご利用いただけます。

- ゆうちょ銀行
【記号・番号】 18220-38579651
【加入者名】 特定非営利活動法人福島ダイアログ
- 東邦銀行
【店名】 植田支店
【店番】 607
【口座番号】 普通預金 1426178
【名義】 トクヒ) 福島ダイアログ

● クレジットカード・PayPalはNPOのwebサイトからご利用いただけます。

- 11月6日(日)のZoomでの視聴
 - 11月5日(土)のプレ・イベント（現地視察）への参加
- は、いずれもNPOのwebサイトから申込みが必要です。

<http://www.fukushima-dialogue.jp/>



2012年伊達ダイアログ



2013年飯館ダイアログ



2017年双葉大熊ダイアログ



2017年伊達ダイアログ

福島ダイアログとは？

福島ダイアログは、2011年11月に国際放射線防護委員会（ICRP）が福島県内ではじめてICRPダイアログが発祥です。

原発事故のあとの暮らしをどう回復していくのか、ICRPの持つネットワークを通じて訪れた国内外の専門家と地元・福島に住む人たち、復興にたずさわるいろいろな立場の人たちで、語り合う場を継続的に設けてきました。

2019年に、これまでICRPと一緒に運営にたずさわってきた日本国内・福島県内の有志が運営を引き継ぐために、NPO法人福島ダイアログを立ち上げました。

以降は、NPO福島ダイアログが運営をICRPから正式に引き継いで、開催してきました。

ダイアログは、相互理解を深めることを目的としています。集まりのスタイルとしては、まず、状況の共有と話題提供を目的として、午前中は関係する発表を全員で聞きます。

午後は、パネル・ディスカッション形式の「ダイアログ」が行われます。「ダイアログ」はファシリテーターの出す質問に順番に答えていってもらうスタイルになります。参加者同士の議論は行われず、聞かれた質問にそれぞれが答える、という形です。このスタイルは、互いの意見に静かに耳を傾けることができるので、議論が苦手な方でも安心して話していただけます。また、難しい話題でも落ち着いて互いの意見に耳を傾けることができます。異なる考え方を静かに聞けるため、自分自身の気づきもたくさん得られます。

ダイアログでは、議論の透明性を保つために、すべて「一般公開」することにしています。模様を録画し、許可をいただけたものは、Webサイトに記録としてアップロードして公開しています。

こうした会議のスタイルは、「ステークホルダー会議」とよばれ、欧州では、広く社会に影響を与え、当局だけでは対応が難しい課題について、よりよい道筋を探るために採用されるようになっていきます。



過去のダイアログの記録は、webからご覧いただけます。
<http://www.fukushima-dialogue.jp/>

（左QRコード）